

令和5年度 南砺市総合計画推進委員会
議事概要

開催日時：令和5年9月28日（木） 9時30分～11時25分

開催場所：南砺市役所別館3階大ホール

出席委員：10名 中村委員長、大村副委員長、川合委員、泊委員、森岡委員、松本委員、鵜野委員、前田委員、櫻井委員、品川委員（代理：長谷川氏）

推進本部：9名 市長、副市長、総合政策部長、総務部長、市民協働部長、ブランド戦略部長、ふるさと整備部長、教育部長、地域包括医療ケア部長

傍聴人：0人

次 第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ
4. 委員の照会
5. 委員長及び副委員長の互選
6. 議事
 - ・総合計画 令和4年度実績の検証結果について（資料1）
 - ・令和4年度地方創生関係交付金事業の進捗について（資料2）
7. 意見交換
8. 閉会

議事要旨

○：委員からの意見・質問 ●：推進本部の意見・回答

（6 協議事項について資料に基づき事務局より説明）

【未来に希望が持てるまち】について

- 令和2年に現在の総合計画を策定してから、ものすごいスピードで世の中が変化してきている。例えば県知事が変わり、ウェルビーイングを唱え、みんなが幸せを感じる様にならなければとしたが、南砺市はその先から幸せを実感できるまちづくりを掲げている。ならば市民みんなが本当に幸せを感じているかとするなら、指標のとり方は今のままでよいのか。5年間同じデータで考えるのでよいのだろうか。例えば【未来に希望がもてるまち】では「学校が楽しいと思っている児童生徒の割合」としているが、全国学力・学習状況調査で良い点を取ったからといったところで、本当に子ども達が学校が楽しいと思っているのか。別の指標の取り方があって然るべきではないか。こども家庭庁が創設され、

こどもまんなか政策が始まり、もっと子供が生まれる社会にしないと若い人が増えないと国が認識しているなか、南砺市は今までもがんばってきているんだから、ちゃんと測る指標でないと正しい評価、新しい施策につながらないのではないかと。

例えば、(資料が) 先に進んで申し訳ないが、P39 の市民がまちをつくる実感の醸成の指標「自らまちづくりに取り組む市民の割合」は着実に増えていると思うが、44.1%は本当かと思う。他にも、住民自治推進交付金事業の「地域課題の解決につながる収益性のある事業に取り組む地域づくり協議会数」の目標値は9となっている。地域づくり協議会は31あり、令和2年度ならわかるが、こんなに少なくてよいのか。時代がものすごいスピードで変わっているので、指標のとり方を工夫するとか。みんなが幸せに感じる指標には何をとるのか。健康寿命はほんとはそれだけで幸せになるのか。介護予防、サービスB型にも取り組んでいるが、令和4年度の目標値3団体。もう少し目標を高くし、如何にし取り組んでもらうか考えないと。目標を見直していかないと評価につながらない。次につながっていかない。

- 定点観測というか、一つの指標を継続して追うことで変化を見ることも大事なのではないかと。個票で個別に詳細に事情や問題点を分析されている。指標については後期の総合計画に反映させていかないといけないのかなと思う。
- 「学校が楽しいと思っている児童生徒の割合」については、全国学力・学習状況調査において、学校が楽しいと思うかどうかの設問に5段階で回答するもの。まずはこの指標の変化がどうなっているかを大事にし、そのほかに、日々児童生徒と接している先生などの意見を参考にしている。
- K P I 「自分の考えを深めたり広げたりすることができている児童生徒の割合(中学生)」が後退していることが衝撃だった。今の教育は児童生徒の主体性を延ばす教育がされていて良いと思っていた。もっと自分で考えて行動するような教育をしていただければ良いと思う。また、今年の春から高校生の定期代の助成があり、手厚い子育て支援に感謝するとともに、これからも子育てしやすい南砺市であればいいと思う。
- ヤングケアラーについては「児童生徒の心身の不調や学業不振、進学・就職の断念に影響があるにも関わらず、認知度が低く、本人や家族に自覚がない」とあり、これは小学校、中学校の現場を見ているとよくあることであり、躓いている子を見ることがある。「認知度の向上」とあるが難しいかと思う。例えば親は理解できるが、祖父母が何気ない言葉をかけて追い込んでしまったりするなど、家庭の中でも認知度に差がある。ぜひともお願いしたいが、どのように取り組むのか。また、学校が楽しい児童生徒の割合が多く、良いことなのだが、おそらく楽しくないと回答した児童の方が深刻であり、原因を把握し、この

数値を減らしていくことが大切なのではないかと思う。

- ヤングケアラーについては教育現場で把握していくことが大事だと考えており、そういった傾向が見える子には先生が声をかけ、学校全体で対応する体制を作っていかなければならない。

また、ヤングケアラーの認識については世代で相違があると思っている。例えば親世代が言ってはいけない言葉など考慮していても、祖父母世代で違った対応をすることがある。そういった啓発が世代の中で伝わる様にしていかないと解決しないと考えている。そういったところを教育委員会を含めて対応していかないといけないと思う。

まずいところに問題があるという指標の見方についても重要で、学校が嫌だという点に焦点をあてるという考えも含めて、今後指標のあり方を考えていきたい。

家庭や学校での発見もあると思うが、高齢者にはケアマネージャーが付いている場合や、障害のある親御さんについても市が窓口となり対応している場合がある。ケアマネージャーからも情報が入ってくるようになっており、そういった方たちと連携して「気づき」に取り組んでいきたい。

【多様な幸せを実感できるまち】について

- ここでいう多様性とはどんなことを指しているのか。
- 日本人、外国人、男性女性、年齢、LGBT に関わらず、すべて含めた多様性を考えている。
- 取り組み評価に「外国人住民の人口が戻り、異文化と異なる人々を理解する雰囲気醸成されてきている」とあるが、それはどこから測ったものか。
- KPI「寛容な社会が形成されている」が若干増加しており、そういった傾向が見られるとした。しかし、割合では24.8%となっており、解決しているとは考えていない。
- 外国人住民の増加はおそらく技能実習生が入ってきたため。それだけでなく、これから国際結婚された方、海外の子どもを呼び寄せた方で微々たるものかもしれないが、外国人の人口は増えてくると感じている。外国人の人口が増えてもなかなか意識が醸成されるものではない。今後、外国人の人口は必ず増えてくるので、そこをどのようにケアしていくのか。言葉の問題もあるし、文化的な問題もある。日本人には常識でも、海外の方には理解し難いこともある。外国の方に任せてはトラブルの元が増えるだけ。学校に対する意識も、日本と海外ではかなり違う。行政から積極的にしかけていかないと、問題が起こってからでは命にかかわることになるかもしれない。

- 昨年度も同様のご意見があり、今年度、外国の方を対象にアンケート調査を実施した。そのなかで、言葉の問題が多いと感じた。日本語教室を開催していただいているが、数も少なく、近い方は参加できるが、遠くの方は行けないといったこともあるかと思うので、何らかの取り組みを進めていかなければいけないと考えている。また、地域と関わりたいと思っている外国の方が多数いることもわかったので、行政だけができることではないが、地域づくり協議会、企業にも働きかけるなどして、外国の方が暮らしやすいようになるよう対応を検討していきたい。
- 国は技能実習生制度はトラブルが多いので、制度を切り替えて外国人をどんどん入れるとしているが、南砺市では技能実習生は確実に増えている。南砺市はものづくりの会社が多くあるが、日本人の若者に求人を出しても入ってこないのが技能実習生が今の中小企業を支えている状況である。当初、技能実習生は3年間の制度だが、3号になることで2年延ばして5年間、特定技能となることで更に5年日本に留まることができるようになった。特定技能になった人は派遣会社がかき集め、全国から奪い合いになる。その結果、東京にとられる。住みやすい、地域がやさしいとかそういう市にならないと、仕事があるのに人がいないといったことになりかねない。中小企業に助成し、給料を上げるなどして南砺市にとどまってもらう、定住してもらう、結婚してもらうということにしていけないといけない。外国人が中小企業を支えていることを理解した政策を着実に実施していかないと中小企業はもたない。みんなで彼らを歓迎していくべきだと考えている。
- 外国人労働者の問題は、若年層の雇用と深い関係がある。地域社会全体でどのように受け入れていくか、理解していくかが大事と思う。あらゆる面で取り組みが必要とおもうので、是非、ひとつ筋の通った形で政策を考えていただければ。

【心豊かな暮らしができるまち】について

- 資料 P7 に「若者・女性が活躍できる魅力ある企業の増加を図り、市内就業の促進を図る」と書かれている。「なんとジョブ」というホームページを運用されているが、非常に良いサイトであり、砺波労働局の HP にもリンクを貼っている。若者の UIJ ターン、多様な働き方への情報発信力でいうと、イクボス宣言、子育て応援企業の表示がされており、このような取り組みを引き続き実施してほしい。また、国の方でも若者応援のユースメール認定、女性活躍のえるぼし認定、子育てのくるみん認定制度があり、こういった企業を増やしていくことが、南砺市の企業の底力を増やすことにつながる。そういった情報発信に力を入れてもらえればよいと感じた。
- 若者応援や女性活躍といった話があり、南砺市の各企業が取り組みを進めているが、そ

ういった企業同士の情報交換の場がない。各企業が気にしていると思うが、どの程度実施しているのか、実態が見えない。

- （上記意見について）企業主団体の会合を通じて、情報共有、周知啓発はもちろんだが、情報共有したものを他の団体にも落とし込んでいく、全体的な取り組みが重要と考えている。

【皆で考えともに行動するまち】について

- 「皆で考えともに行動するまち」とは、地域づくり協議会に求められていることと考えている。小規模多機能自治が始まり、地域包括と連携した高齢者のサポートは進んでいるが、地域課題について取り組むのは非常に難しい。例えば特産品の「干し柿」。今までは農協か干柿組合に任せておけばというものだった。関心が無いわけではなかったが、口をはさむ余地はなかった。今はそのことまで求められている。他にも「農業」。営農組合任せで、地域が口をはさむことではなかったが、今では営農組合任せでは持続できなくなっている。非常に複雑で難しい問題である。地場産食材の利用やふるさと教育、SDG s 推進など多くの事業が記載されているが、これで「皆で考えともに行動するまち」の事業に足りるのか不安である。もっと踏み込んで、地域の誇りや愛着の醸成に何が必要かをみんなが考えるようにしてほしい。SDG s でフードロスにも取り組んでいるし、そういう項目があってもよかった。項目を増やすなど、令和2年に設定したチェック項目ではピンとこない。

- 指標については今後、後期の計画策定で見直ししていただきたい。また、指標に表れたバックに何があるかを分析していただきたい。

- 「アオハル」という事業を実施されていると思うが、南砺市には福野高校しかなく、それ以外の高校生は市外の時間のかかるところへ行っている。アオハル祭に参加できる学生は非常に限られていると考えている。その前に、小中学生の時に南砺市がどんなところか知る機会が必要なんじゃないかと思う。五箇山や利賀等、南砺にしかないものがあると思うが、小学生が何度そこに足を運ぶのか。たぶん親が連れて行かないと行かない。毎年五箇山に行くなど、浸透させることで、進学後の戻ってきたいなという考えに結びつけることができるのではないか。特化したものがあるのにそこへのつながりが薄いのが残念だと思う。

【全体について】

- 商店街のいわゆる町の八百屋さんとか、魚屋さんとかがなくなりつつある。みんな郊外のショッピングセンターやドラッグストアへ行く。ショッピングセンターは一定の集客

がなくなれば撤退する。10年後、ハッと気づいたら買い物に行くところがなくなっているのではないかと心配している。井波は頑張っていて、移住してきた人のパン屋や喫茶店が増えている。でも、八百屋や魚屋ではない。パン屋など若者に向けたお店がもてはやされているが、そのうち、パンやコーヒーを買いに行く若者はいなくなる。お年寄りはどうやって生活していくんだらうと思う。今の内から小さくてもいいので、肉屋や魚屋を開業できるような環境をつくる手立てを今のうちに打っておかないと、気付いたときには生活できなくなっているのではないか。

- 外国人の児童生徒について、資料 P22 に「多国籍の児童の転入による多言語への対応ができるように」と書いてある。すばらしいし大事な事。南砺市の HP でも多言語化されている。ただ、残念なことがあり、多言語化されたページから飛ぶと、日本語のページになり、また多言語化が必要になる。その多言語化された言葉はわかりやすくなっていると思われるが、外国人だけでなく、高齢な方や難しい言葉になれない方にむけて「やさしい日本語」というものがある。災害時に外国の方の2次被害を抑えるために始められたことだが、日本人にむけても要点を抑えて発信することができるかとされている。先進的なことではあるが、南砺市でも取り組んでいただきたい。
- 言語もだが、ユニバーサルデザインなどですべての人が社会へのアクセスを可能にするということも、「誰ひとり取り残さない」の考え方であり、取り組んでいただきたい。
- 南砺のほのぼのとした環境で子育てしたいという親がいる一方、子どもの進学に命懸けの親もいる。南砺市は全員ほのぼのとした環境で育てたいと考えていると思うのは間違いである。ちゃんとした環境で育てたいと考える親は半分くらいはいるのではないか。中学校の教員の配置について、2クラス以上なら教員はベテランと新人の2人体制で教わっていたものが、1クラスになると教員も1人体制となり、教わることができず、教員の教育レベルが落ちる。つまり、児童生徒のことだけで議論するのは間違いであり、南砺市の教育の質が落ちるのを心配している。教育環境を整えて、選択肢を持たせるべきと思う。
- 空き家に外国の人を住ませる際に、日本人はいいけど、外国人はだめという話を聞いた。町内で排除するという動き、そういうことがあったという認識をしていただきたい。
- 本日いただいたご意見は、会議要旨として委員の皆様にご覧させていただくとともに、HP 等で公表させていただく。また、いただいたご意見は今後の事業展開に活用させていただくと共に、後期のまちづくりプラン作成にも反映させていきたいと思う。ありがとうございました。（閉会）